



環太平洋大学協会というアジア・太平洋地域の有力大学の集まりがある。その年次総会がアメリカのカリフォルニア工科大学(カルテック)と呼ばれるで開催されるといのでアメリカにやってきました。この原稿もカルテックのキャンパスで書いています。

カルテックは、日本ではあまり知られていないが、アメリカ西海岸を代表する名門中の名門大学である。タイムズの大学ランキングでは、世界第5位で、スタンフォードやUCLAより上位にランクされている。ノーベル賞を受賞した教授や卒業生が30人を優に超える。聞けば、この順位も実力を反映したものと合点がいくだろう。

カルテックは思いのほか小規模な大学である。学生総数は2千人強、教授

## アジアの学生交流

# 国際競争力向上の鍵

は300人ほどで、わが大阪大学の10分の1のサイズだ。キャンパスはとても美しいが、アメリカの大学としては、ごんまりしている方だろう。カルテックを訪問して、日本の大学

山内 直人



大阪大国際公共政策研究科教授

の国際化戦略の立ち遅れをあらためて感じた。カルテックは、教員も学生も世界中から集め、知的多様性に富んでいる。学長はフランス出身だし、学生の3割はアジア系だ。それに比べて、日本の主要大学の多くは、留学

生比率が5%前後にとどまる。現在政府が掲げている「留学生30万人計画」は、日本に来る留学生を飛躍的に増やし、大学の国際化を推進しようとするものである。もちろん、留学生や研究者交流の数を増やせばよいというものではなく、各分野のリーダーになれる優秀な学生や研究者をいかに確保し、育てるかが重要である。特に、増加を続けるアジアの留学生をターゲットにしつつ、欧米や他のアジアの大学との競争の中で、質の高い留学生に日本の大学に来てもらうことが、日本の大学の国際競争力を高めることにも

つながると考えられる。具体的には、奨学金制度の充実、宿舍の確保などとともに、教育研究内容の向上と英語によるプログラムの提供が欠かせない。そのためには、各大学が明確な目標とグローバル戦略を持

## ふるさと伝言

ち、必要な計画を着実に実行し、それを点検・評価して、目標や計画を再設定するというサイクルを確立することが何よりも必要だと考える。

EUでは、1980年代から、大学制度や言語が異なる加盟国間の学生交流を促進するための「エラスムス計画」を実施しており、欧州全体の高等教育の国際競争力向上に効果を挙げている。これに倣って、アジアの大学の間での教員や学生の相互交流の促進を推進すれば、アジアの高等教育の国際競争力を高めることにつながると期待される。とりわけ、地理的にも隣接する中国、韓国、日本など東アジア主要国の間で、カリキュラムや学位授与基準の共通化、単位互換制度や遠隔教育の充実を図ることが必要である。

「アジア版エラスムス計画」の推進のためには、膨大な資金と知的資源が必要であり、各大学の積極的な取り組みとともに、各国政府が強いリーダーシップを発揮し、国際的な協力的体制を構築することが不可欠であろう。

(やまうち・なおと、松山市出身)